スタンフォード大学 海外研修報告書

京都医療技術短期大学 診療放射線技術学科
赤澤 博之

今回，スタンフォード大学への海外研修に応募したのは，当初はその知名度の大きさからでした．スタンフォード大学は，さまざまな大学ランキングでも常に高順位であり，著名な教授陣はもとより，風光明媚な土地に広大なキャンパス，爽快な気候と勉学に打ち込むには最高の環境でした．

スタンフォード大学放射線科ルーカスセンターでは，最新鋭の画像診断装置およびソフトウェアなど優れた設備を多数有しており，MR，CT，分子イメージング，画像処理などに関する最先端の研究についての講義および実習など，研修内容にも大きく期待して渡航しました．実際，スタンフォード大学病院やオンコロジーセンターの見学など，研修プログラムも盛りだくさんで，あっという間の一週間でした．

私自身は これまで，画像処理および画像計測を応用し，医用画像の客観的解釈に関する研究を行ってきました．その対象は，おもに放射線治療に関する画像でしたが，ベースとなる知識･技術は多くのモダリティで共通しています．本研修でも，Image Processing Display of Cardiac Images や Neuro Imaging Post Processing and Display，Multimodality Image Fusion など画像処理に関する内容が多く盛り込まれており，3D ラボでの実習でも画像処理に関する具体的なテクニックをご教授いただきました．

この海外研修でとくに印象深かったのは，講義いただいたすべての先生方が，ご自身の専門分野についての明確な将来展望を抱いておられ，多くの関連分野を含めて共同し，その実現に向かって研究されていることでした．こうした個人個人の共通意識が，組織として力強く進むための原動力になっていると強く感じました．また，職種や専門が異なる多くの参加者と交流する機会が持てたことも，今回の海外研修の大きな成果であると確信しております．

今回の研修は一週間と短期なため，テーマを絞り込んだ系統立てた内容とするか，またはある程度範囲を拡げて最先端の内容とするか，この二者しか無いと考えます．しかし，今回の研修を中～長期に渡る海外留学の導入編と位置付け，より多くの学会員にその機会を与えるという意味は大きいと感じております．

最後になりましたが，このような有意義なスタンフォード大学海外研修の実現にご尽力いただいた多くの方々に深く感謝いたします．ありがとうございました．